

国公私：単位互換用授業科目一覧

大学名：名古屋市立大学

2024(令和6)年度 後期 単位互換授業科目

曜日	時限	授業科目名	単位数	担当教員名	教室	備考
水	6	技術マネジメント	2	大神 正道	Zoomによるオンライン	
土	6・7 (10・11月)	外国経済史	2	木谷 名都子	Zoomによるオンライン	10・11月の土曜日6・7限に開講しません(11/9除く) (初回講義のみ6限)

授業時間帯

【1時限】 9:00～10:30

【2時限】 10:40～12:10

【3時限】 13:00～14:30

【4時限】 14:40～16:10

【5時限】 16:20～17:50

【6時限】 18:20～19:50

【7時限】 20:00～21:30

シラバス詳細

タイトル「2024 大学院シラバス」、カテゴリ「経済学研究科」

和文 英文

科目情報

科目名

技術マネジメント

講義名

技術マネジメント

サブコード名

担当教員

大神 正道

実務経験のある
教員による
講義

キャンパス区 分

滝子（経）

開講学期

後期

開講時期

後前 ～ 後後

曜日・時限

水 7

講義室

講義室未設定

科目種別

講義

科目区分

経営系

単位区分

選

単位数

2

準備事項

備考

直接参照URL

https://lcu.nagoya-cu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=008400204436&formatCD=1

講義情報

授業の目的・目標

本講義では、「イノベーション」や「技術変化」、「技術進化」をキーワードとする基礎的な経営学の文献(主に英語文献)の理解を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関連

学識・知見：技術的变化に柔軟かつ的確に対応するための理論的な基礎能力を身につける

キーワード

イノベーション、技術変化、技術進化

遠隔授業科目

遠隔授業科目（全開講回数の半数以上を遠隔授業で実施する科目）

学修到達目標

本講義における学習到達目標は大きく三つある。第一は輪読する文献の主張を理解することである。第二は、第一の目標と関連するが、輪読対象の文献(特に論文)の構成や論理、まとめ方を学ぶことである。第三は文献を読むことで自分なりの問題意識を育てることである。

授業概要

本講義は授業計画の欄に提示した文献を読む予定である。授業では発表担当者が作成した発表資料をもとに議論を行う。

授業計画

本科目はZoomによる遠隔授業形式で実施する（全講義回）。下記の文献[1]と[2]を読むことでケーススタディについて学んだ後、技術マネジメント分野においてケースを用いた研究論文や、受講者の興味にあわせた文献を輪読する予定である。

ケーススタディに関する文献（例）

[1]井上達彦 (2014)『ブラックスワンの経営学—通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディ』日経BP社.

[2]Eisenhardt, K. M. (1989). Building theories from case study research. *Academy of Management Review*, 14(4), 532-550.

技術マネジメント分野におけるケースを用いた研究論文（例）

[3]Bechky, B. A. (2003). Sharing meaning across occupational communities: The transformation of understanding on a production floor. *Organization Science*, 14(3), 312-330.

[4]Davis, J. P., & Eisenhardt, K. M. (2011). Rotating leadership and collaborative innovation: Recombination processes in symbiotic relationships. *Administrative Science Quarterly*, 56(2), 159-201.

[5]McDonald, R. M., & Eisenhardt, K. M. (2019). Parallel play: Startups, nascent markets, and effective business-model design. *Administrative Science Quarterly*, 65(2), 1-41.

授業時間外の学修（準備学習を含む）

毎回、事前に輪読文献を読み、まとめてくることが前提になる。

成績評価基準

秀：研究論文を作成するための問題を設定することができる
優：技術マネジメント分野の研究論文について批判的に検討できる
良：代表的な技術マネジメント研究について説明できる
可：技術マネジメント研究の基本的な概念を説明できる

成績評価方法

受講者には最低論文1本(著書の場合は最低1章)についての発表を求める。
また、発表担当ではなくてもレジュメ (A4サイズ1~2ページ程度) を7割以上 (発表担当分を含む) 提出し、ディスカッションに参加することが単位取得の要件となる。

教科書・テキスト

参考文献

近能善範・高井文子(2010)『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社.
延岡健太郎(2006)『MOT[技術経営]入門』日本経済新聞社.
一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社.(講義の対象は第1部)

履修要件

履修上の注意事項

履修者への要望事項

ケーススタディを用いて修士論文やリサーチペーパーの作成を考えている学生の受講を要望する。

アクティブ・ラーニング

連絡先・オフィスアワー

ogami[at]econ.nagoya-cu.ac.jp
※[at]を@(半角)に置き換えてください。
原則として火曜日12:10-13:00(3号館4階424研究室)
※事前に連絡があれば他の日時でも対応可能。

実務経験を活かした教育の取組

備考

関連URL

シラバス詳細

タイトル「2024 大学院シラバス」、カテゴリ「経済学研究科」

和文 英文

科目情報

科目名

外国経済史

講義名

外国経済史

サブコード名

担当教員

木谷 名都子

実務経験のある
教員による
講義

キャンパス区 分

滝子（経）

開講学期

後期

開講時期

後前 ～ 後後

曜日・時限

土6、土7

講義室

講義室未設定 / 講義室未設定

科目種別

講義

科目区分

制度歴

単位区分

選

単位数

2

準備事項

備考

直接参照URL

https://lcu.nagoya-cu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=008400204435&formatCD=1

講義情報

授業の目的・目標

アメリカ経営史について学びます。アメリカの現代企業がどのような背景の下で誕生したのか、経営上どのような課題に直面し、それをどのように解決してきたのかを考えます。

ディプロマ・ポリシーとの関連

学識・知見

キーワード

commerce, manufacturer, consolidation, diversification, entrepreneur, the global economy

遠隔授業科目

遠隔授業科目（全開講回数の半数以上を遠隔授業で実施する科目）

学修到達目標

1. アメリカの現代企業の特徴を理解すること。
2. アメリカの現代企業がどのような背景の下で誕生したのか、経営上どのような課題に直面し、それをどのように解決してきたのかを理解すること。

3. アメリカ経済ひいては世界経済の歴史をふまえたうえで、時代背景の中に企業活動を位置づけて考察できるようになること。

授業概要

テキストの輪読を行います。報告担当者は、テキストのなかで自分が担当する部分の内容を要約するとともに、それに対する疑問点やコメントを提示します。その後、履修者全員でディスカッションを行います。教員による補足解説も行います。

授業計画

この授業は、全15回を遠隔授業形式で行います。

- 第1回 授業の概要と計画
- 第2回 Introduction: A business civilization
- 第3回 Chapter 1: Trade and empire
- 第4回 Chapter 2: Commerce in the new nation, 1780-1820
- 第5回 Chapter 3: Early manufacturers, 1820-1850
- 第6回 Chapter 4: Railroads and mass distribution, 1850-1880
- 第7回 Chapter 5: An industrial country, 1880-1910
- 第8回 前半の復習
- 第9回 Chapter 6: Modern companies, 1910-1930
- 第10回 Chapter 7: Crisis and war, 1930-1945
- 第11回 Chapter 8: Corporate America, 1945-1980
- 第12回 Chapter 9: Entrepreneurs and the global economy, 1980-2020
- 第13回 Conclusion
- 第14回 後半の復習
- 第15回 総合ディスカッション

授業時間外の学修（準備学習を含む）

毎回、予習を欠かさないこと。

授業後、理解が不十分であった内容については、関連文献を読むなどし

て修得に努めること。

成績評価基準

学修到達目標の達成度の評価にあたっては、①アメリカの現代企業の特徴を理解し、説明できるか、②アメリカの現代企業が誕生・成長した時代背景を理解し、説明できるか、③アメリカの現代企業がどのような経営課題に直面し、それらをどのように解決してきたのかを、時代背景の中に位置づけたうえで理解し、説明できるか、を基準とします。

成績評価方法

上記の成績評価基準をふまえて、以下の方法で評価します。

—報告およびディスカッション（60%）：学修到達目標の達成度を、①テキストの内容の理解度、②ディスカッションでの発言頻度、の観点から評価します。

—レポート（40%）：学修到達目標の達成度を、①課題設定、②論理的思考（事実と意見の区別、自身の意見と他者の意見の区別、全体構成）、③文章表現（表現の統一・ルール順守）、の観点から評価します。

教科書・テキスト

Walter A. Friedman (2020) "American Business History: A Very Short Introduction", Oxford University Press.

参考文献

Robert C. Allen (2011) "Global Economic History: A Very Short Introduction", Oxford: Oxford University Press.

安部悦生・壽永欣三郎・山口一臣・宇田理・高橋清美・宮田憲一（2020）『ケースブック アメリカ経営史〔新版〕』、有斐閣。

猪木武徳（2009）『戦後世界経済史』、中央公論新社。

金井雄一・中西聡・福澤直樹編（2010）『世界経済の歴史—グローバル

経済史入門』、名古屋大学出版会。

ジェフリー・ジョーンズ著、安室憲一・梅野巨利訳（2007）『国際経営講義—多国籍企業とグローバル資本主義』、有斐閣。

杉山伸也（2014）『グローバル経済史入門』、岩波書店。

ロバート・フィッツジェラルド著、川邊信雄・小林啓志・竹之内玲子・竹内竜介訳（2019）『多国籍企業の世界史—グローバル時代の人・企業・国家』、早稲田大学出版部。

その他の参考文献については、授業で紹介します。

履修要件

特にありません。

履修上の注意事項

無断欠席は厳禁です。欠席する際には必ず連絡してください。

レポートの提出期限は厳守。期限後の提出は減点対象とします。

場合によっては、報告・ディスカッション・教員による補足解説を英語で行う可能性があります。

履修者への要望事項

報告担当者は、レジュメを作成してください。

履修者全員、予習を欠かさずに行ってください。

ディスカッションの際には、積極的に発言してください。

アクティブ・ラーニング

授業の後半に履修者全員でディスカッションを行います。

連絡先・オフィスアワー

連絡先 : kitani@econ.nagoya-cu.ac.jp

研究室 : 3号館3階323研究室

オフィスアワー : 月曜日11:00-12:00、木曜日12:00-12:50

※「在室中」であるときは随時訪ねてくれてかまいませんが、面談を希望する際には、念のために事前に連絡してアポイントメントをとってください。

実務経験を活かした教育の取組

備考

授業計画は、授業の進度などによって変更される場合があります。

関連URL

【後 期】

		日	月	火	水	木	金	土	学 事
10 月				1	2	3	4 ①	5 ①	1 秋入学式・ガイダンス 1-7 博士前期早期修了申請期間【博士前期課程1年次生】 1-11 後期履修登録・修正期間 4 後期授業開始
		6	7 ①	8 ①	9 ①	10 ①	11 ②	12 ②	14 スポーツの日【授業開講日】
		13	14 ②	15 ②	16 ②	17 ②	18 ③	19 ③	
		20	21 ③	22 ③	23 ③	24 ③	25 ④	26 ④	
		27	28 ④	29 ④	30 ④	31 ④			28-11/1 履修取消期間 31 研究計画書 提出期限【博士前期課程1年次生】
11 月							1 ⑤	2 ⑤	
		3	4 ⑤	5 ⑤	6 ⑤	7 ⑤	8 ⑥	9 ⑥	4 文化の日の振替休日【授業開講日】
		10	11 ⑥	12 ⑥	13 ⑥	14 ⑥	15 ⑦	16 ⑦	12 修士論文・リサーチペーパー選択 最終申請期限【変更:3月修了予定者】
		17	18 ⑦	19 ⑦	20 ⑦	21 ⑦	22 ⑧	23 ⑧	23 勤労感謝の日【授業開講日】
		24	25 ⑧	26 ⑧	27 ⑧	28 ⑧	29 ⑨	30 ⑨	
12 月		1	2 ⑨	3 ⑨	4 ⑨	5 ⑨	6 ⑩	7 ⑩	2-10 課程博士学位授与申請期間(後期) 修士学位授与申請タイトル申出期間(後期)
		8	9 ⑩	10 ⑩	11 ⑩	12 ⑩	13 ⑪	14 ⑪	
		15	16 ⑪	17 ⑪	18 ⑪	19 ⑪	20 ⑫	21	
		22	23 ⑫	24	25	26	27	28	24-1/10 冬季休業期間
		29	30	31					
1 月				1	2	3	4		
		5	6	7	8	9	10	11 ⑫	9 修士学位授与申請書・論文提出期限(後期) 11 後期授業再開
		12	13	14 ⑫	15 ⑫	16 ⑫	17	18	14 博士後期課程 公開セミナー(後期) 17 大学入学共通テスト準備のため休講
		19	20 ⑬	21 ⑬	22 ⑬	23 ⑬	24 ⑬	25 ⑬	18・19 大学入学共通テスト (滝子キャンパス立入禁止)
		26	27 ⑭	28 ⑭	29 ⑭	30 ⑭	31 ⑭		
2 月								1 ⑭	
		2	3 ⑮	4 ⑮	5 ⑮	6 ⑮	7 ⑮	8 ⑮	8 後期授業最終日
		9	10 試補	11 試補	12 試補	13 試補	14 試補	15 試補	10-15 後期補講期間・後期期末試験 11 建国記念日【授業開講日】
		16	17	18	19	20	21	22	
		23	24	25	26	27	28		25・26 (学部)前期日程入学試験 (滝子キャンパス立入禁止)
3 月								1	
		2	3	4	5	6	7	8	3-14 長期履修申請・変更期間【博士前期課程1年次生】
		9	10	11	12	13	14	15	8 (学部)中期日程入学試験 12 (学部)後期日程入学試験 (滝子キャンパス立入禁止)
		16	17	18	19	20	21	22	
		23	24	25	26	27	28	29	
		30	31						21 修了式

は、学部等事務室業務を取り扱いません。○は、講義開講日(数字は講義回数)です。

※国民の祝日に関する法律に規定する休日は学則で休業日とされていますが、後期授業回数確保のため10月14日(月)、11月4日(月)、11月23日(土)2月11日(火)を授業開講日とします。